

栄養学：633-4-DP3・DP4・DP5

年次	学期	学則科目責任者
4年次	後学期	吉垣 純子 (生理学)

学修目標 (GIO) と単位数	GIO: 歯科病院では小児および高齢者が多く診療を受けており、その栄養指導や摂食指導が必要とされている。また近年では、高血圧、糖尿病などのメタボリックシンドロームの患者が増加しており、歯科治療においても栄養管理が必要となる場面が増加している。人体における栄養素の役割を理解し、口腔および全身の健康を維持・増進するための食生活および歯科治療に関わる栄養管理を説明できることを目標とする。 単位数：1
担当教員	パワー ウジャー、吉垣 純子、*清水 武彦、*清水 邦彦、*根岸 慎一、*野本 たかと、*林 佐智代、*河相 安彦、*五十嵐 憲太郎、*牧山 康秀、*飯塚 普子、*山口 秀紀、*小方 頼昌、平塚 浩一
教科書	スタンダード生化学・口腔生化学 第3版 荒川俊哉 他 学建書院 ビジュアル生理学・口腔生理学 (第3版) 和泉博之 他 学建書院
参考図書	超入門 生化学・栄養学 (看護学生超入門シリーズ) 穂苅 茂 他 照林社 基礎栄養学 第5版 灘本知憲 編 化学同人 日本人の食事摂取基準 (2020年版) 伊藤貞嘉、佐々木敏 監修 第一出版 小児の口腔科学 第5版 朝田芳信 他 学建書院 無歯顎補綴治療学 第3版 市川哲雄、大川周治、平井敏博、細井紀雄 医歯薬出版 臨床歯周病学 第3版 村上伸也 他 医歯薬出版
評価方法 (EV)	各講義担当者から提出された試験問題による平常試験を1回実施し、その成績により評価する。 なお、平常試験に対する再試験は行わない。
学生へのメッセージ オフィスアワー	2年次、3年次で学修した内容が必要になるので、復習してから講義に臨んで欲しい。 わからないことは放置せず、質問に来ること。(オフィスアワー 16:30-17:30、各担当教員の医局にて)

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/09/16 (金) 4時限 14:50~16:20	三大栄養素の分類・構造・特徴	<p>【授業の一般目標】 基礎栄養学を理解するために三大栄養素の基本的な分類、構造、および特徴を学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 三大栄養素と五大学養素の違いを説明できる。 2. タンパク質を構成するアミノ酸の構造、性状、および必須アミノ酸の意味を説明できる。 3. 炭水化物を分類し具体的な種類を説明できる。 4. 脂質の構造と脂肪酸の種類・特徴を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：2年次の栄養に関するプリントの見直し。 事前学修時間：1時間 事後学修項目：配布したプリントの見直し。 事後学修時間：1時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 プリントを配布する。</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 5 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 a 生体構成成分の構造・機能</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 生命の分子の基盤 C-2-1) 生命を構成する基本物質 ①アミノ酸とタンパク質の構造、機能及び代謝を説明できる。 ②糖質の構造、機能及び代謝を説明できる。 ③脂質の構造、機能及び代謝を説明できる。</p>	パワー ウジャー 平塚 浩一
2022/09/30 (金) 4時限 14:50~16:20	エネルギー代謝と消化酵素	<p>【授業の一般目標】 ATP産生を理解するために、五大学養素の関わりとエネルギー代謝経路を学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 炭水化物の代謝経路を説明できる。 2. β酸化を説明できる。 3. アミノ酸の脱アミノ反応の意義を説明できる。 4. 尿素経路を説明できる。 5. アデノシン三リン酸がエネルギーになる理由を説明できる。 6. 解糖系、TCA回路、電子 (水素) 伝達系、尿素回路の場所を説明できる。 7. 三大栄養素が小腸から吸収されるまでの消化酵素を説明できる。</p>	パワー ウジャー 平塚 浩一

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/09/30 (金) 4時限 14:50~16:20	エネルギー代謝と消化酵素	<p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：2年次の代謝に関するプリントの見直し。 事前学修時間：1時間 事後学修項目：配布したプリントの見直し。 事後学修時間：1時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 プリントを配布する。</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 5 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 a 生体構成成分の構造・機能</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 生命の分子の基盤 C-2-1) 生命を構成する基本物質 ①アミノ酸とタンパク質の構造、機能及び代謝を説明できる。 ②糖質の構造、機能及び代謝を説明できる。 ③脂質の構造、機能及び代謝を説明できる。 ④生体のエネルギー産生と利用を説明できる。 ⑤酵素の機能と主な代謝異常を説明できる。</p>	バワール ウジャール 平塚 浩一
2022/10/07 (金) 4時限 14:50~16:20	糖代謝異常と脂質代謝異常	<p>【授業の一般目標】 糖代謝異常と脂質代謝異常の症状とメカニズムを理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 食品のエネルギーが計算できる。 2. 基礎代謝量に影響する要因を説明できる。 3. 糖代謝異常としての糖尿病を説明できる。 4. 脂質代謝異常の症状と原因を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：糖代謝と脂質代謝の経路を復習しておく。 事前学修時間：1時間 事後学修項目：練習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 講義中に提示された問題を解き、解答を発表する。</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅳ 主要症候 1 全身の症候 ケ 内分泌系(代謝、栄養を含む)</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (9) 内分泌系とホメオスタシス ①内分泌器官・組織の構造と機能及びホルモンの種類、作用と異常を説明できる。 C-2 生命の分子の基盤 C-2-1) 生命を構成する基本物質 ④生体のエネルギー産生と利用を説明できる。</p>	吉垣 純子
2022/10/14 (金) 4時限 14:50~16:20	ビタミンの役割と欠乏症	<p>【授業の一般目標】 ビタミンの人体における役割を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 人体におけるビタミンの役割を説明できる。 2. 脂溶性ビタミンと水溶性ビタミンを分けられる。 3. ビタミン欠乏による症状を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：酵素と補酵素の関係を調べておく。 事前学修時間：1時間 事後学修項目：練習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】</p>	吉垣 純子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/10/14 (金) 4時限 14:50~16:20	ビタミンの役割と 欠乏症	302教室 【国家試験出題基準(主)】 歯科医学総論 総論Ⅳ 主要症候 1 全身の症候 ケ 内分泌系(代謝、栄養を含む) 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 生命の分子の基盤 C-2-1) 生命を構成する基本物質 ⑤酵素の機能と主な代謝異常を説明できる。	吉垣 純子
2022/10/21 (金) 4時限 14:50~16:20	成長発育と栄養 小児期の食育	【授業の一般目標】 小児期の適切な栄養摂取を理解するために、乳児期の栄養と小児期の食育について理解する。 【行動目標(SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 妊娠授乳期の栄養を説明できる。 3. 乳児期の栄養を説明できる。 4. 小児期の食育について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目: 小児期の栄養について(小児の口腔科学第5版P33-38まで) 事前学修時間: 30分 事後学修項目: 授業プリントの復習 事前学修時間: 30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング: 無 スライド、プリント配布 【学修方略(LS)】 講義 【場所(教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 6 人体の発生・成長・発達・加齢 イ 人体の発育 a 発育区分(出生前期、新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期) 【国家試験出題基準(副)】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢 8 人体の成長・発達・加齢 イ 発育区分における成長・発達の評価 a 身体成長の評価法 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-2) 小児の歯科治療 ①乳歯と幼若永久歯の齲蝕の特徴と予防法を説明できる。 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-2) 組織、器官及び個体の発生と成長 ④小児の身体発育、精神発達の特徴と評価法を説明できる。	*清水 武彦
2022/10/28 (金) 4時限 14:50~16:20	小児齲蝕とシュガー コントロール	【授業の一般目標】 小児期の齲蝕抑制を理解するために、齲蝕と砂糖摂取の関係について理解する。 【行動目標(SBOs)】 1. 臨床経験に基づき、以下の内容を教授する。 2. 齲蝕と砂糖摂取の関係について説明できる。 3. 飲料による齲蝕を説明できる。 4. シュガーコントロールについて説明できる。 5. 小児期の間食について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目: 小児の口腔科学第4版 9章齲蝕と予防、小児齲蝕とシュガーコントロール 事前学修時間: 1時間 事後学修項目: 授業配布の資料の内容確認と整理 事後学修時間: 30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング: 無 スライド、プリント配布 【学修方略(LS)】 講義 【場所(教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準(主)】 歯科医学各論 各論Ⅱ 歯・歯髄・歯周組織の疾患 1 歯の硬組織疾患 エ 小児の歯の硬組織 疾患 c 齲蝕のリスクファクター	*清水 邦彦

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/10/28 (金) 4時限 14:50～16:20	小児齲蝕とシュガーコントロール	<p>【コアカリキュラム】</p> <p>B 社会と歯学</p> <p>B-3 予防と健康管理</p> <p>B-3-2) 歯科疾患の予防と健康管理</p> <p>⑤歯科疾患のリスク因子を説明できる。</p> <p>E 臨床歯学</p> <p>E-4 矯正歯科・小児歯科治療</p> <p>E-4-2) 小児の歯科治療</p> <p>①乳歯と幼若永久歯の齲蝕の特徴と予防法を説明できる。</p>	*清水 邦彦
2022/11/04 (金) 4時限 14:50～16:20	歯科矯正と食育	<p>【授業の一般目標】</p> <p>子供たちの口腔機能の向上が不正咬合予防に役立つことを理解するために、口腔機能と口腔形態との関わりを理解し、子供たちの口腔の健康に関心を高める。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 臨床経験に基づき、以下の内容を教授する。 正しく噛むことの重要性について説明できる。 顎骨・歯列形態の成長変化について概説できる。 食生活の変化について説明できる。 現代の子供たちの歯並びの問題点を列挙できる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>事前学修項目：咀嚼筋群の名称、起始、停止、ならびに顎運動との関係について予習してください。</p> <p>事前学修時間：1時間</p> <p>事後学修項目：授業時配布の確認シートを復習してください。</p> <p>事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>アクティブラーニング：有 team based Learning (グループ学修) を一部取り入れる。</p> <p>プリント</p> <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】</p> <p>302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】</p> <p>必修の基本的事項</p> <p>6 人体の発生・成長・発達・加齢</p> <p>ウ 口腔・顎顔面の成長・発育</p> <p>b 上顎骨・下顎骨の成長の特徴 (成長の時期、骨形成様式)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】</p> <p>歯科医学総論</p> <p>総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢</p> <p>9 口腔・顎顔面の発生・成長・発育</p> <p>エ 頭部の成長・発育</p> <p>b 歯列、咬合</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>E 臨床歯学</p> <p>E-4 矯正歯科・小児歯科治療</p> <p>E-4-1) 不正咬合の治療</p> <p>②正常咬合の概念と成立・保持条件を説明できる。</p>	*根岸 慎一
2022/11/11 (金) 4時限 14:50～16:20	障害児者の栄養管理	<p>【授業の一般目標】</p> <p>障害児者のQOLの維持・向上させるための栄養管理を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 臨床経験に基づき、以下の内容を教授する。 障害者と健常者の食事摂取基準の違いを説明できる。 経管栄養と経腸栄養剤について説明できる。 障害と摂食嚥下機能の関連を説明できる。 栄養管理における多職種連携の重要性を説明できる。 サルコペニアについて説明できる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>事前学修項目：年齢別のエネルギー必要量を理解する。</p> <p>事前学修時間：30分</p> <p>事後学修項目：障害の特性とエネルギー必要量を理解する。</p> <p>事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>アクティブラーニング：無</p> <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】</p> <p>302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】</p> <p>必修の基本的事項</p> <p>12 治療の基礎・基本手技</p> <p>シ 口腔機能のリハビリテーション</p> <p>b 口腔機能管理</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】</p> <p>歯科医学総論</p> <p>総論Ⅰ 保健・医療と健康増進</p> <p>8 国民栄養と食生活・食育指導</p> <p>イ 食育と口腔保健</p>	*野本 たかと

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/11/11 (金) 4時限 14:50～16:20	障害児者の栄養管理	<p>c 食の機能と口腔保健 総論V 診察 3 障害者への対応 カ 健康支援、患者管理 5 高齢者への対応 ウ 栄養評価 b 栄養支援チーム<NST> 歯科医学各論 各論V 高齢者等に関連した疾患・病態・予防ならびに歯科診療 6 摂食嚥下障害への対応(摂食機能療法) オ 栄養療法</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-5 高齢者、障害者、精神・心身医学的疾患 E-5-1) 高齢者の歯科治療 ⑨摂食嚥下リハビリテーションを説明できる。 ⑩栄養管理や食形態の調整を説明できる。 E-5-2) 障害者の歯科治療 ⑥発達期の摂食嚥下障害のリハビリテーションを説明できる。</p>	*野本 たかと
2022/11/18 (金) 4時限 14:50～16:20	リハビリテーションにおける栄養管理	<p>【授業の一般目標】 リハビリテーションにおける栄養管理ができるために、疾患・障害の特性と栄養状態の関連について理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. リハビリテーション栄養の概念について説明できる。 3. 栄養管理のプロセスおよび栄養スクリーニングについて説明できる。 4. 早産児・低出生体重児の栄養管理について説明できる。 5. 重症心身障害児の栄養管理について説明できる。 6. 自閉スペクトラム症児の栄養管理について説明できる。 7. 脳血管障害における栄養管理について説明できる。 8. 認知症における栄養管理について説明できる。 9. パーキンソン病における栄養管理について説明できる。 10. 誤嚥性肺炎における栄養管理について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：リハビリテーション栄養の概念および、早産児・低出生体重児、重症心身障害児、自閉スペクトラム症、脳血管障害、認知症、パーキンソン病、誤嚥性肺炎の概略について学修をしてください。 事前学修時間：1時間 事後学修項目：配布資料および講義内容の復習 事後学修時間：1時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論V 高齢者等に関連した疾患・病態・予防ならびに歯科診療 6 摂食嚥下障害への対応(摂食機能療法) オ 栄養療法</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論V 診察 3 障害者への対応 カ 健康支援、患者管理</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-5 高齢者、障害者、精神・心身医学的疾患 E-5-1) 高齢者の歯科治療 ⑧摂食嚥下障害の診察、検査及び診断を説明できる。 ⑨摂食嚥下リハビリテーションを説明できる。 ⑩栄養管理や食形態の調整を説明できる。 E-5-2) 障害者の歯科治療 ⑤発達期の摂食嚥下障害の診察、評価、診断を説明できる。 ⑥発達期の摂食嚥下障害のリハビリテーションを説明できる。</p>	*林 佐智代
2022/11/25 (金) 4時限 14:50～16:20	義歯装着者の食の摂取と栄養	<p>【授業の一般目標】 高齢義歯装着者の食の自立や支援ができるために、義歯装着者の食摂取および心理的背景に関する知識を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき、以下の内容を教授する。 2. 果物および野菜の必要摂取量を説明できる。 3. 果物と野菜の全身への影響を説明できる。 4. 義歯装着者の食事摂取の特徴を説明できる。 5. 義歯装着者の食事摂取に影響する因子を列挙できる。 6. 関連する文献を吟味できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目： 1. Awad MA, et al. J Dent Res. 2012 Jan;91(1):39-46. 2. Cousson PY et al. Gerodontology. 2012; 29: e685-92. 3. Hamdan NM et al. J Dent Res. 2013; 92: 146S-53S. 4. Muller F et al. J Dent Res. 2013; 92: 154S-60S. 5. Amagai N et al. J Dent. 2017; 65: 89-94.</p>	*河相 安彦

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/11/25 (金) 4時限 14:50~16:20	義歯装着者の食の 摂取と栄養	をダウンロードして通読すること。授業中にグループワークでまとめを行います。 事前学修時間：1時間 事後学修項目：各論文のまとめに基づく復習 事後学修時間：1時間 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 メディア・文献による事前学習。反転授業：グループワーク 【学修方略（LS）】 講義 【場所（教室/実習室）】 302教室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅳ 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害 2 診察、検査、診断 イ 検査と評価 e 栄養評価 【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅴ 診察 5 高齢者への対応 ウ 栄養評価 a 栄養アセスメント 歯科医学各論 各論Ⅳ 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害 8 指導と管理 エ 栄養指導 各論Ⅴ 高齢者等に関連した疾患・病態・予防ならびに歯科診療 3 高齢者等に関連した臨床評価・診断・治療計画 ア 全身状態の評価 e 栄養 4 高齢者等に関連した予防と管理 イ フレイル予防のための歯科保健管理 c 栄養管理 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-5 高齢者、障害者、精神・心身医学的疾患 E-5-1) 高齢者の歯科治療 ⑩栄養管理や食形態の調整を説明できる。	*河相 安彦
2022/12/02 (金) 4時限 14:50~16:20	高齢期の口腔機能 低下と栄養管理	【授業の一般目標】 心身機能・口腔機能が低下した高齢患者の食の自立や支援ができるために、高齢期の口腔機能低下と栄養管理について知識を修得する。 【行動目標（SBOs）】 1. 高齢者の食事摂取基準について説明できる。 2. 高齢者の栄養指標について説明できる。 3. フレイルサイクルについて説明できる。 4. 口腔機能低下症と低栄養の関連を説明できる。 5. 口腔機能と栄養管理がフレイルに及ぼす影響を説明できる。 6. 食品摂取の多様性について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：オーラルフレイル・口腔機能低下症の定義について前期の資料等を確認する 事前学修時間：1時間 事後学修項目：講義資料の復習 事後学修時間：1時間 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 【学修方略（LS）】 講義 【場所（教室/実習室）】 302教室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅴ 高齢者等に関連した疾患・病態・予防ならびに歯科診療 4 高齢者等に関連した予防と管理 イ フレイル予防のための歯科保健管理 b 口腔機能管理 【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅰ 保健・医療と健康増進 8 国民栄養と食生活・食育指導 ア 国民栄養と食品保健 b 食事摂取基準 c 食生活指針 歯科医学各論 各論Ⅴ 高齢者等に関連した疾患・病態・予防ならびに歯科診療 3 高齢者等に関連した臨床評価・診断・治療計画 ア 全身状態の評価 a 身体状態 e 栄養 a 摂食嚥下機能	*五十嵐 憲太郎

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2022/12/02 (金) 4時限 14:50~16:20	高齢期の口腔機能低下と栄養管理	<p>b 発声・構音機能 エ 治療計画の策定</p> <p>【コアカリキュラム】 B 社会と歯学 B-1 健康の概念 ③栄養と食育を説明できる。 E 臨床歯学 E-5 高齢者、障害者、精神・心身医学的疾患 E-5-1) 高齢者の歯科治療 ③口腔機能低下の検査と予防法（介護予防を含む）を説明できる。 ⑩栄養管理や食形態の調整を説明できる。</p>	*五十嵐 憲太郎
2022/12/09 (金) 4時限 14:50~16:20	入院患者の栄養補助	<p>【授業の一般目標】 入院患者、周術期患者の栄養補助の必要性、栄養補助の理論と実際を説明できる。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき、以下の内容を教授する。 2. 入院患者、周術期患者の栄養補助の必要性を説明できる 3. 患者の栄養状態の評価法が説明できる 4. 補助栄養の組成を説明できる 5. 栄養補助の方法が選択できる</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：一日の必要栄養について説明できる 事前学修時間：1時間 事後学修項目： 事後学修時間：</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅰ 保健・医療と健康増進 8 国民栄養と食生活・食育指導 ア 国民栄養と食品保健 b 食事摂取基準</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅳ 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害 8 指導と管理 エ 栄養指導</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-1) 診察の基本 ③病歴聴取（主訴、現病歴、既往歴、家族歴、生活歴、社会歴・職業歴等）を説明できる。</p>	*牧山 康秀
2022/12/16 (金) 4時限 14:50~16:20	歯科・口腔外科における栄養管理	<p>【授業の一般目標】 口腔外科疾患に対する周術期の栄養管理を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき、以下の内容を教授する。 2. 歯科における栄養管理法について理解できる。 3. 周術期の栄養管理について説明できる。 4. 経腸栄養法、静脈栄養法について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：経口摂取困難時の栄養管理の特徴を理解する。 事前学修時間：1時間 事後学修項目：講義資料を復習する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 9 その他の治療法 ク 食事・栄養療法</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-6 医師と連携するために必要な医学的知識 ②医科疾患合併患者の歯科治療時の注意点を説明できる。</p>	*飯塚 普子
2022/12/23 (金)	生活習慣病	【授業の一般目標】	*山口 秀紀

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
4時限 14:50～16:20	肥満 栄養バランス	<p>生活習慣病について理解する。 肥満について理解する。 日本人の食事内容の変遷について理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき、以下の内容を教授する。 2. 食事内容の変化と生活習慣病の関連を説明できる。 3. 体重と疾患の関係を説明できる。 4. 生活習慣病と歯科治療との関係について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：生活習慣病について説明できる。肥満について説明できる。日本人の食事内容の変遷について説明できる。 事前学修時間：30分 事後学修項目：授業配布資料を再読。 事後学修時間：15分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 予防と健康管理・増進 ア 健康増進と疾病予防 e メタボリックシンドローム</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅰ 保健・医療と健康増進 8 国民栄養と食生活・食育指導 ア 国民栄養と食品保健 a 国民栄養の現状 b 食事摂取基準 c 食生活指針 総論Ⅴ 診察 6 全身疾患を有する者への対応 ア 留意すべき疾患 h 内分泌・代謝疾患 歯科医学各論 各論Ⅴ 高齢者等に関連した疾患・病態・予防ならびに歯科診療 1 高齢者等の歯科診療で注意すべき疾患・病態・症候 オ フレイル 3 高齢者等に関連した臨床評価・診断・治療計画 ア 全身状態の評価 e 栄養</p> <p>【コアカリキュラム】</p>	*山口 秀紀
2023/01/13（金） 4時限 14:50～16:20	食事、栄養と生活習慣病、歯周病と全身疾患	<p>【授業の一般目標】 歯周病と生活習慣病、全身疾患の関係について理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 歯周病と全身疾患の関係について学ぶ 2. 糖尿病と歯周病の関係について学ぶ 3. 栄養と生活習慣病について理解する</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：臨床歯周病学（第2版）医歯薬出版 第20章ペリオドンタルメディスンの内容を学習する。 事前学習時間：30分 事後学習項目：授業時配布のプリントを用いて復習する。 事後学習時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 板書およびパワーポイント</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 2 口腔・顎顔面領域の疾患の病因・病態 ア 主な病因・病態 b 歯・歯周組織の疾患</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅱ 歯・歯髄・歯周組織の疾患 3 歯周疾患 ア 歯周疾患の病因と病態 j 歯周疾患と健康の関わり</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患</p>	*小方 頼昌

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2023/01/13 (金) 4時限 14:50~16:20	食事、栄養と生活習慣病、歯周病と全身疾患	E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因 ③歯周疾患の病因と病態を説明できる。	*小方 頼昌
2023/01/20 (金) 4時限 14:50~16:20	平常試験と解説	<p>【授業の一般目標】 栄養学の授業内容をまとめ、理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 適切な食事指導を実施できる。 2. ライフステージに合わせた食育を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：今まで受けた栄養学の授業内容をまとめる。 事前学修時間：3時間 事後学修項目：試験問題について、講義ノート・プリントで確認する。 事後学修時間：1時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p>	パワール ウジャー 吉垣 純子 *清水 武彦 *清水 邦彦 *根岸 慎一 *野本 たかと *林 佐智代 *河相 安彦 *牧山 康秀 *山口 秀紀 *小方 頼昌 *五十嵐 憲太郎 *飯塚 普子